

凸版および平版



『日進町誌資料編六』の馬の頭の標具、絵図などの画像部分を印刷するときに使用された版です。版は凹凸がほとんどない「平版」と呼ばれるものが多く、油が水を弾く方法を用いて、インクを塗り印刷します。平版を使った印刷は1798年にドイツで発明されました。もともとは石灰岩を用いたため「石板印刷」と呼び、使い終わったら石を削って再利用しながら利用されました。ただ石板は重く扱いにくいこともあり、亜鉛版が使用され、技術の発展とともに世界各国に広がりました。